

# 鈴鹿市は男女共同参画宣言都市です

## 男女共同参画都市宣言

(鈴鹿市制施行70周年・鈴鹿市男女共同参画センター開設10周年の年に)

自然の恵みと伝統や文化に育まれたまち、  
人々の絆に支えられた、活力に満ちたまち、  
このまちを愛し、未来に向けて歩むわたしたちは、  
性別にかかわらず、男女があらゆる分野において  
個性と能力を十分に発揮し、  
夢を持って暮らせるまち「鈴鹿」の実現をめざし、  
ここに「男女共同参画都市」を宣言します。

平成24年12月 鈴鹿市

本市は七つの都市宣言をしており、そのうちの一つが男女共同参画都市宣言です。今回の特集では、この男女共同参画の取り組みなどについてお知らせします。

## 男女共同参画は全国各地で取り込まれています 6月23日から29日までは「男女共同参画週間」です

内閣に設置されている男女共同参画推進本部では、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ、喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会」の実現を目指して、平成13年から「男女共同参画週間」を設けています。期間中は、本市を含め、全国各地でさまざまな取り組みが行われます。

この週間で使用するキャッチフレーズが、毎年募集されています。今年のテーマは「身近な女性の活躍を地域ぐるみで応援するキャッチフレーズ～女性の力を活かして元気な地域社会をつくるために～」で、応募総数2,331点の中から「**地域力×女性力=無限大の未来**」が選ばれました。

以前のポスターとキャッチフレーズ(標語)

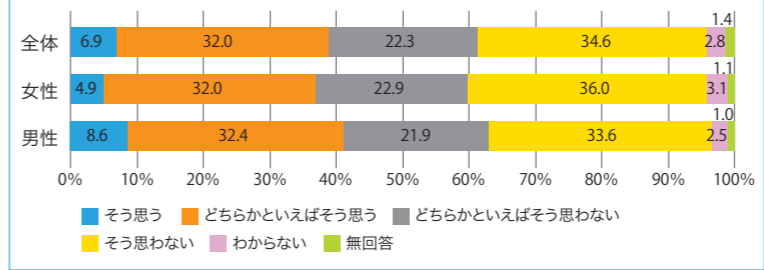


本市では、この週間に合わせて市役所本館での懸垂幕設置や15階でのパネル展示を行うほか、街頭啓発も実施します。また、これに先立ち6月21日(日)には、文化会館で映画祭を開催します(映画祭についての詳細は、広報すずか5月5日号、または鈴鹿市男女共同参画センターホームページをご覧ください)。

## アンケート結果からみえる 鈴鹿市の男女共同参画の今

平成26年2月に、20歳以上の市民3,000人を対象にアンケートを実施しました。29の設問のうち、国や県でも必ず行う設問2つを紹介します。

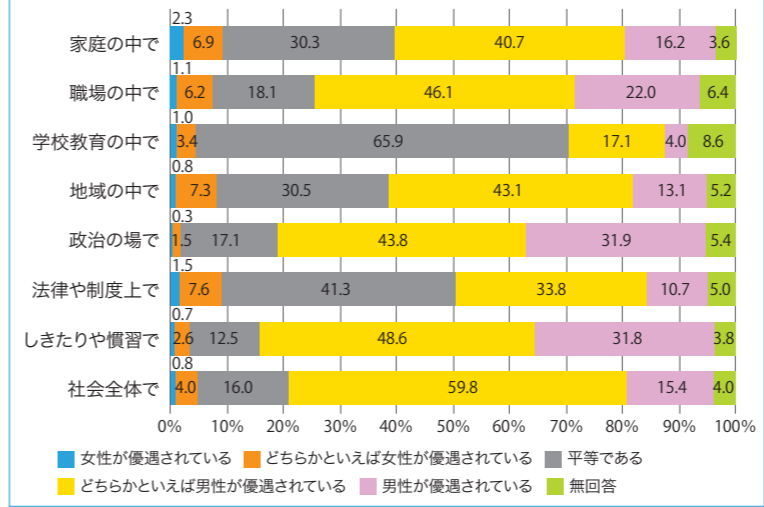
### 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思いますか?



性別役割分担意識に否定的な「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は56.9%で、過半数を超えました。

特に男性の意識が変わってきたようで、前回平成21年の調査では、否定的意見と肯定的意見の割合がほぼ同じであったのに比べて、今回の調査では否定的な意見が55.5%、肯定的な意見が41%という結果でした。

### あなたは、各分野において男女の地位が平等になっていると思いますか?



「学校教育」の中で平等であると感じている人の割合は65.9%、「法律や制度上で」が41.3%と男女ともに前回調査を上回りましたが、これら以外は、すべて下回る結果となりました。

法律や制度が整備され、公の場における男女平等は確立されてきましたが、日々の生活では、以前より「男性が優遇されている」と感じる場面が増えてきているのではないかと考えられます。

学生が、社会に出ても変わらず平等感を持ち続けることができる社会を、市民の皆さんと考えていきたいと思っています。

## 夢を持って暮らせるまち「鈴鹿」の実現を目指しています

「男女共同参画社会」と言うと何だか難しいことのように感じますが、「誰もが自分らしく生きられる社会」と言えばわかりやすいですね。性別にとらわれず、誰もがその個性と能力を發揮することができる社会の実現を目指しています。

政治分野への女性参画の低さなど、世界の中で日本はまだ男女共同参画の後進国です。国の成長戦略の一つとして女性の活躍が期待されていますが、政治や経済の分野だけでなく、防災をはじめとする地域活動の分野にも、もっとも女性の声が届きたいですね。

現在、来年度からスタートする第2次男女共同参画基本計画を策定中です。男女がお互いを認め合って心豊かな生活が送れるよう、男女共同参画意識の向上やワークライフバランスの推進などに重点をおいた施策を検討しています。男女共同参画都市宣言にもあるように、夢を持って暮らせるまち「鈴鹿」の実現を目指し、男女共同参画センター(愛称:ジェフリーすずか)では、これからもさまざまな講座や講演会を企画していきますので、皆さんぜひご参加ください。



男女共同参画課 課長 坂 公子